

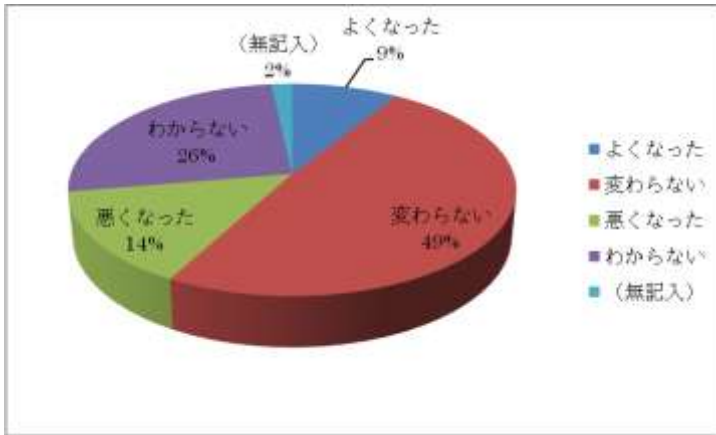
吹田市民アンケート調査結果

2011年4月20日

すいた市民自治

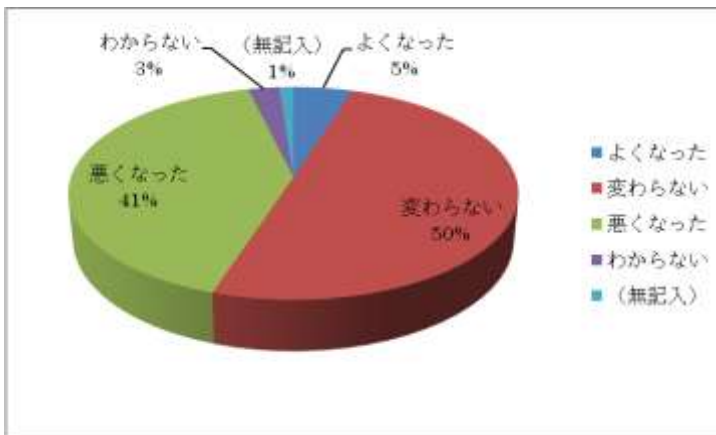
Q 1. 今の吹田市政は、5年前と比べてどのようになったと思いますか。

半数の人が変わらないと評価しているが、悪くなったという人が14%あり、反面、良くなったというひとは1割にも満たない。



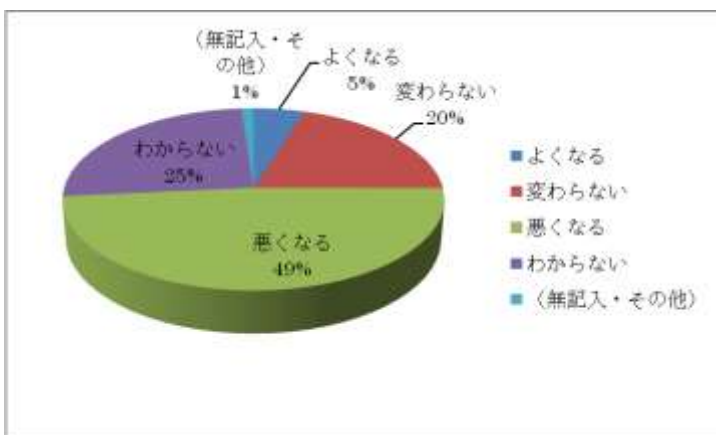
Q 2. あなたの暮らし向きは、5年前と比べてどのようになったと思いますか。

変わらないという人が半数を占めている。悪くなったという人が4割強を占めているとともに、良くなったという人は5%弱と極めて少なく、最近の厳しい経済状況等を反映していると思われる。



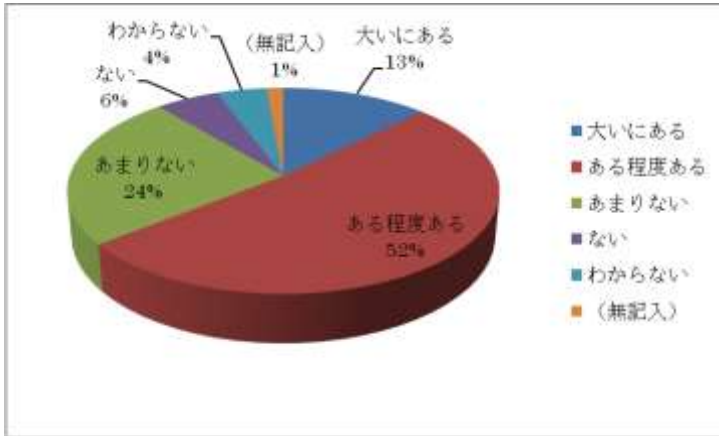
Q 3. あなたの5年後の暮らし向きは、どうなると思いますか。

半数近くの人が悪くなると思っており、よくなるという人は5%弱と極めて少なく、多くの人が将来の生活に不安を抱いているのが伺える。



Q 4. 暮らし向きの変化に吹田市の責任はありますか。

60パーセントの人が責任はあっており、市民生活の向上にとって吹田市が果たす責務には大きなものがあると思われる。反面、3割の人が責任はない・あまりないと判断しているのは、市民の自覚意識の高さが伺えるものである。



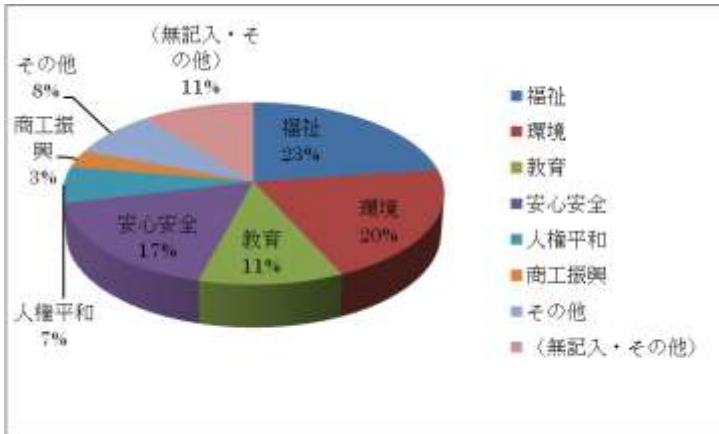
Q 5. 市役所へ要望や不満をおっしゃられたことはありますか。(複数回答可)

半数以上の人々が「ない」と答えられており、市政への関心の低さが伺える。一方、1/3の人が何らかの方法で要望等をしており、そのうち「直接市役所へ」という人が17%弱で一番多く、最近の市民意識の高さが伺える。反面、「議員を通して」という人は、8%弱に留まり、議員の活用仕方等に課題があると思われる。



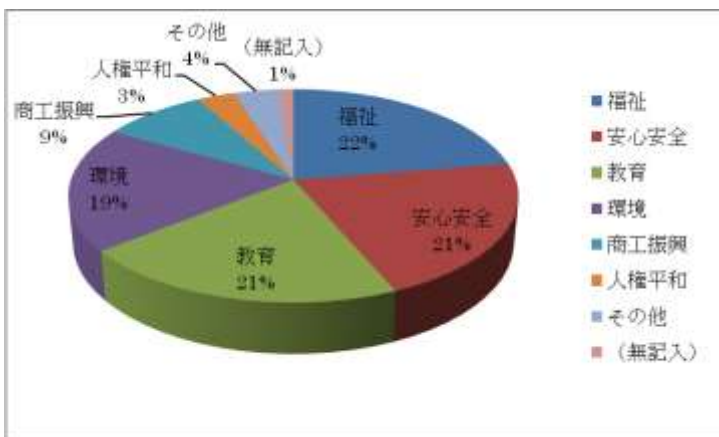
Q 6. 次の施策のうち、市がよくやっていると思われるものはどれですか。(複数回答可)

第1位が「福祉」、第2位が「環境」、第3位が「安心安全」となっており、この3つの分野で6割を占めている。生活に直接関係する施策に、市民の関心が高いことが伺える。



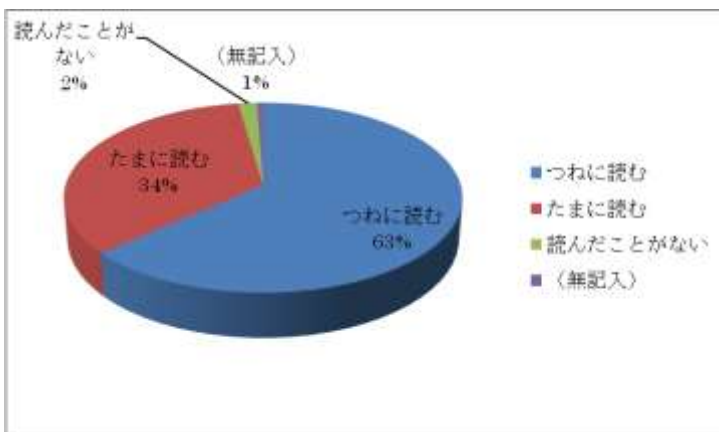
Q 7. 次の施策のうち、市がもっと力を注ぐべきものはどれですか。(複数回答可)

第1位が「福祉」、第2位が「安心安全」、第3位が「教育」となっており、この3つの分野で60数パーセントを占めている。全問Q6と少し違う傾向であるが、第1位は「福祉」と同じであり、やはり生活問題に対する市民の関心が高いことが伺える。



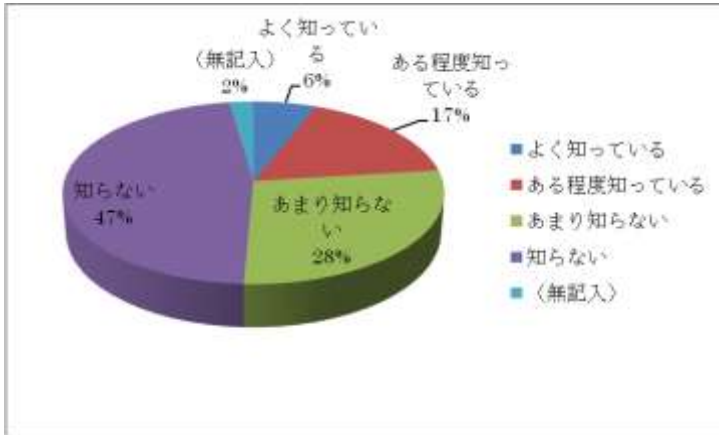
Q 9. 『市報すいた』は読みますか。

60数パーセントの人が読んでおり、「市報すいた」の認知度はある程度高いといえるが、1/3の人は読んでおらず、より購読度を高める工夫が求められる。



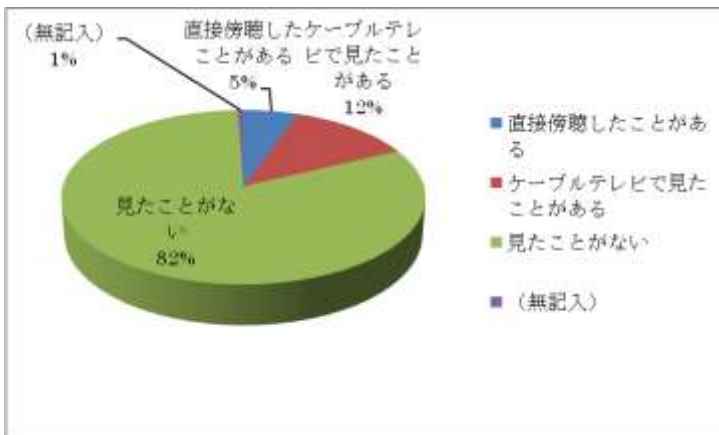
Q 10. パブリック・コメントという制度をご存じですか。

2/3近い人が知らない・あまり知らないと答えており、この制度についてより一層の周知を図る必要があると思われる。



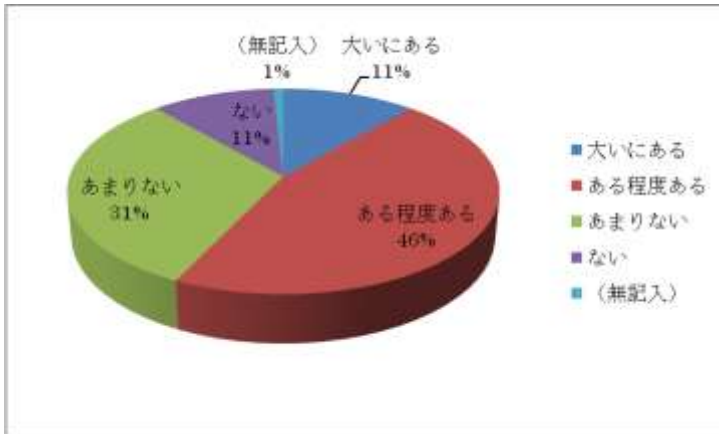
Q 11. 吹田市議会の会議を見られたことがありますか。

見たことがないと答えた人が8割強を占めており、市報すいたやケーブルテレビで周知を図ることが求められる。



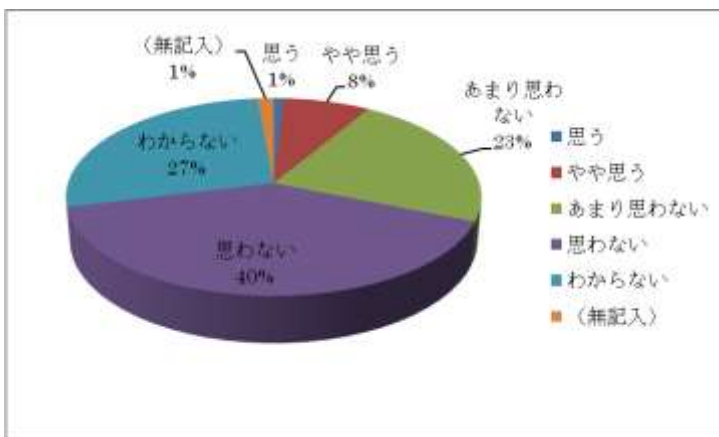
Q 12. 吹田市議会に関心はありますか。

6割弱の人が「関心がある」と答えている半面、4割強の人が「関心がない」と答えており、市報すいたや市議会たよりなどで、より一層の周知を図る必要があると思われる。



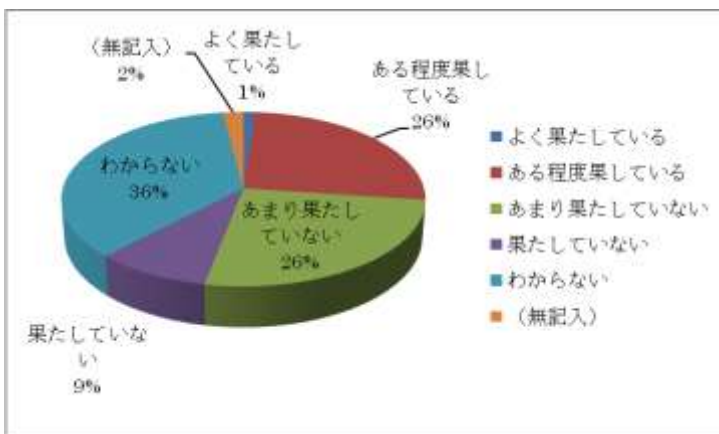
Q 1 3. あなたの意見や声が吹田市議会に反映されていると思いますか。

6割強の人が「反映されていない」と判断しており、「反映されている」という人は、わずか 8.7%と少ない。また、「わからない」と答えた人が3割弱あり、今後、市民の意見やニーズを如何に議会に反映させるかが課題であると思われる。



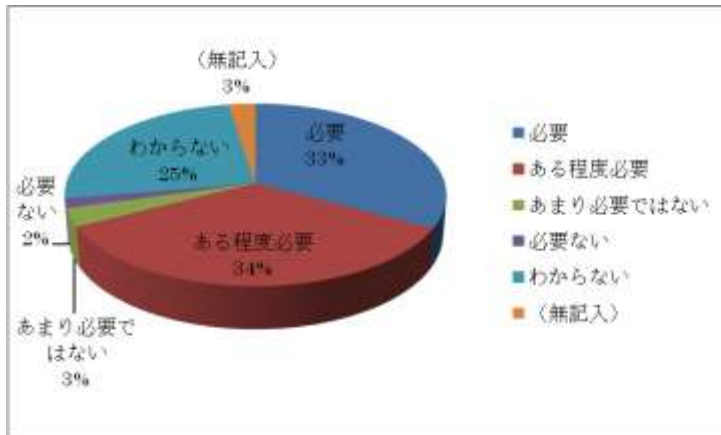
Q 1 4. 今の吹田市議会は議会として期待される役割を果たしていると思いますか。

プラス評価の人とマイナス評価の人が半々であり、また「わからない」と答えた人が1/3強を占めており、市議会の活動等があまり市民に認知されていない状況が伺われる。



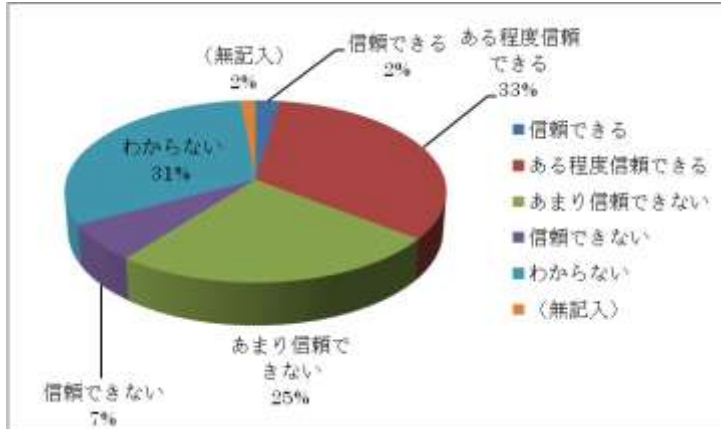
Q 15. 多くの自治体で、議会改革がいられています。吹田市議会でも議会改革が必要だと思いますか。

7割近い人が何らかの改革が必要であると考えており、新聞やテレビ等で報じられる自治体や議会の現状を踏まえた回答であると思われる。



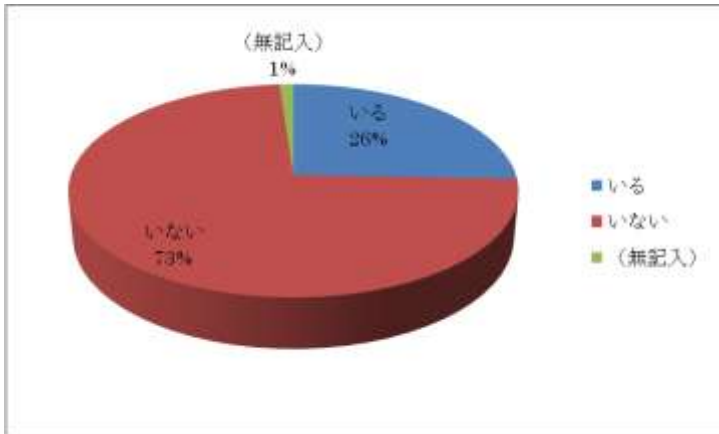
Q 16. 今の吹田市議会は信頼できますか。

プラス評価とマイナス評価が半々であり、役3割の人が「わからない」と答えている。これも Q14 と同様、市議会の活動等があまり市民に認知されていないのが原因だと思われる。



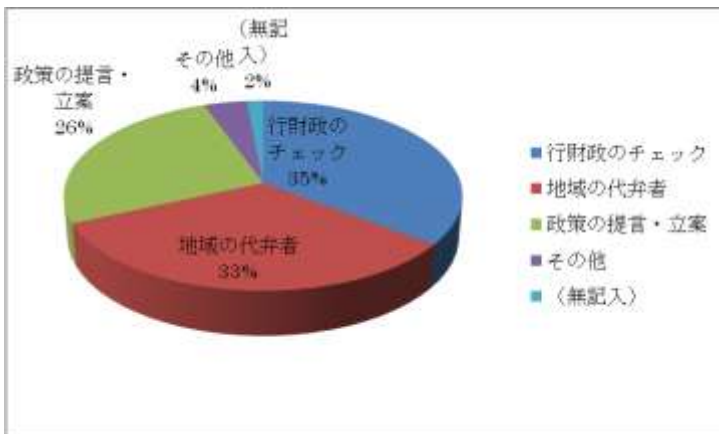
Q 17. 何かあったときに相談できる市議会議員はいますか。

「いない」と答えた人が7割強を占めており、市議会議員は市民の代表だというもの、あまり身近な存在でないことも実態であると思われる。



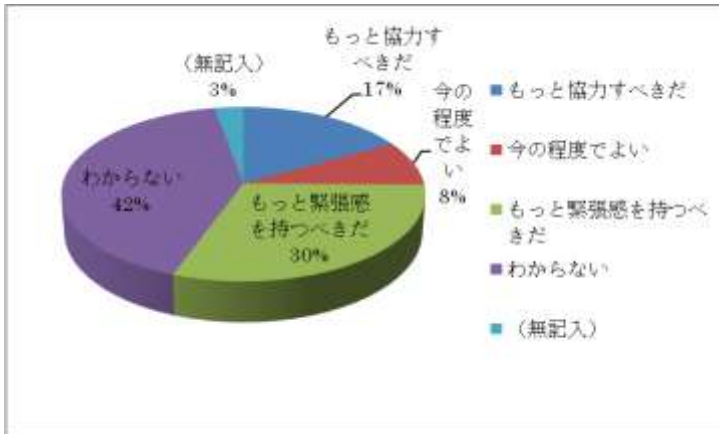
Q 1 8. 吹田市議会（議員）に期待する役割は何ですか。（複数回答可）

第 1 位は「行財政のチェック」であり、本来の市議会の役割を市民が的確に認識していることが伺える。第 2 位は「地域の代弁者」であり、住んでいる地域の問題を解決することを期待されている人も多い。また第 3 位は「政策立案」であり、市議会（議員）の積極的な活動を望まれていつ人も多いことが伺われる。



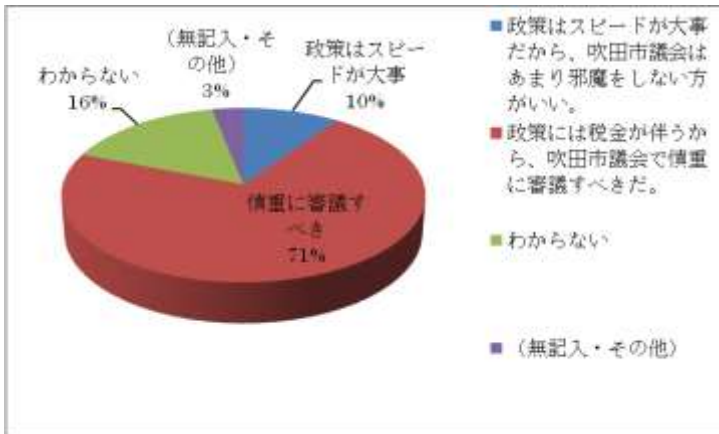
Q 1 9. 吹田市長と吹田市議会との関係についてどのように思われますか。

3 割強の人が「緊張感を持つべき」と答えており、Q18 と同様、市議会に対して行財政のチェック機能を期待されている。反面、4 割強の人が「わからない」と答えていることから、市長と市議会の関係はあまり理解されていないように思われる。



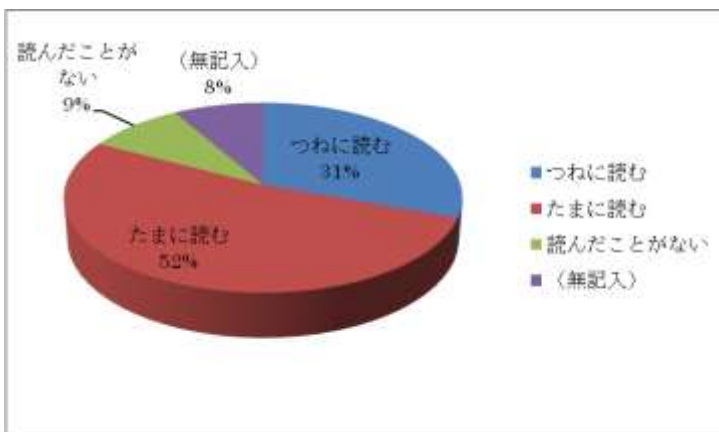
Q 20. 次のような意見があります。どちらに賛成ですか。

7割強の人が「市議会での慎重審議」を求めており、自分達の税金の使途については、かなり高い関心があるものと思われる。



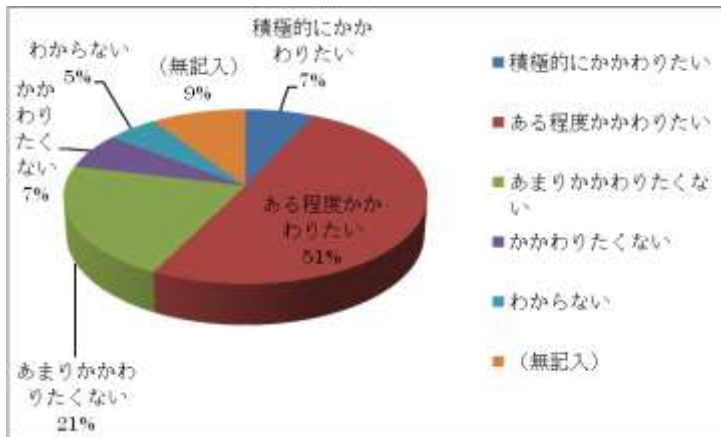
Q 21. 吹田市議会広報（すいた市議会だより）は読みますか。

8割強の人が「読む」と答えており、市議会たよりは市民にかなり浸透していると思われる。Q 9で「市報すいた」を読んでいると答えた人は6割弱であり、市議会たよりの方が市民の関心が高い様子が伺われる。



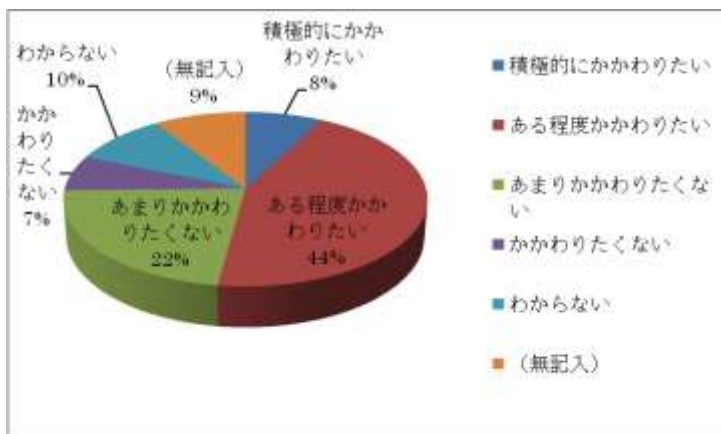
Q 2 2. 地域行事へのかかわりについて、あなたご自身はどのようにお考えでしょうか。以下の中から最も当てはまるものをお選びください。

6割弱の人が「かかわりたい」と回答しており、市民の地域の活動への関心の高さが伺われる。これは、最近の団塊の世代の大量退職等に伴い、自由時間の多い市民が増加していること等が原因の一つと思われる。



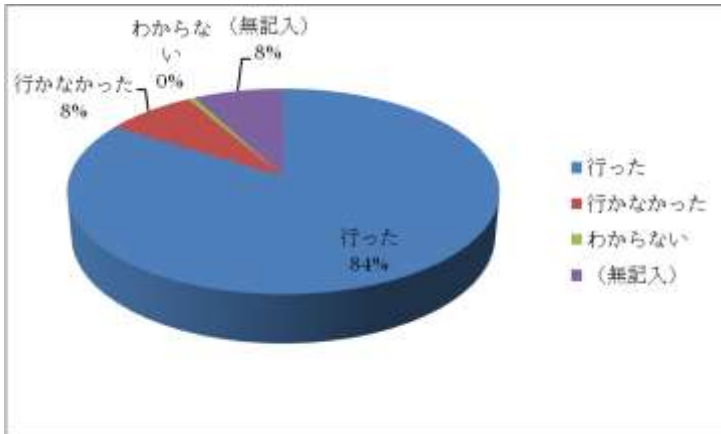
Q 2 3. ボランティア活動やNPOへのかかわりについて、あなたご自身はどのようにお考えでしょうか。以下の中から最も当てはまるものをお選びください。

7割弱の人が「かかわりたい」と回答しており、全問 Q22 と同様に、市民の関心が高いことが伺われる。これは、1995年の阪神淡路大震災を契機に、ボランティア活動が大量に発生し、それ以降もわが国で急速に浸透していることを反映していると思われる。



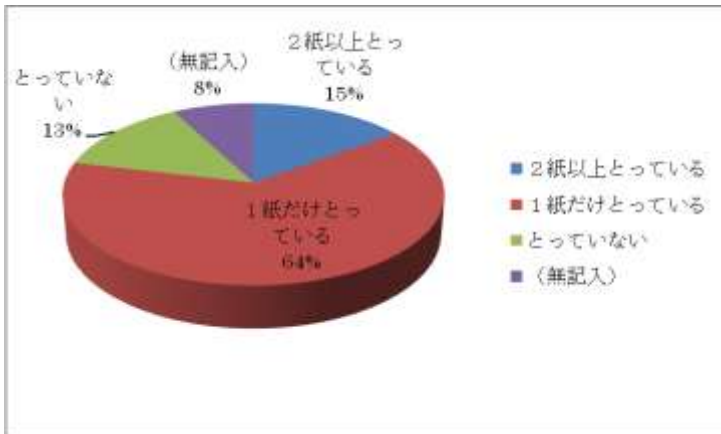
Q 2 4. 昨年の参議院選挙時には投票に行かれましたか。

吹田市民の投票率が〇〇%に比べて、このアンケートに答えた人は、8割強の人が投票に行っており、政治への関心の高さが伺われる。



Q 2 5. ご家庭で新聞は購読されていますか。

8割近い人が新聞を「とっている」が、「とっていない」人が13.5%あり、これは若い世代の活字離れと相関があるのかも知れない。



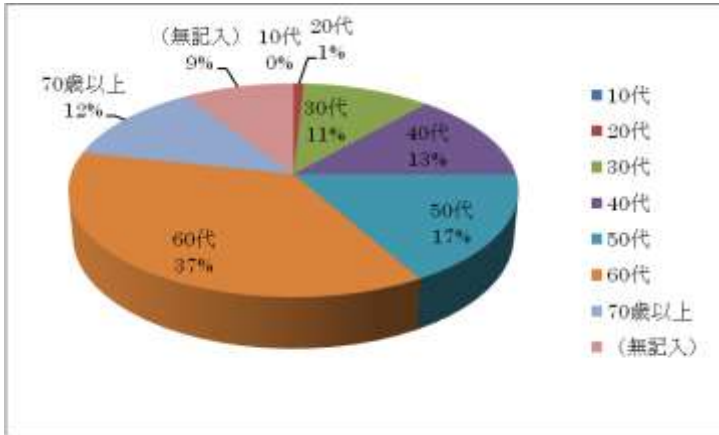
Q 2 6. テレビのニュース番組はどの程度視聴されますか。

全問 Q25 と同様、8割強の人がテレビニュースを見ているが、「見ない」人は5%と少なく、新聞よりはテレビの方を見ている人が多いと思われる。



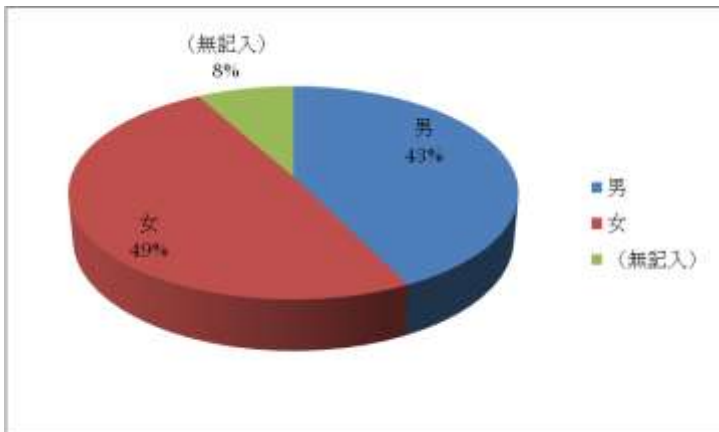
Q 27. あなたは、現在、何歳ですか。満年齢でお答えください。

このアンケートに回答された人は、6割弱が60歳以上であり、10代・20代は1%に満たず若い世代の関心の低さが伺われる。今後のこの種のアンケート調査を実施する場合の課題である。



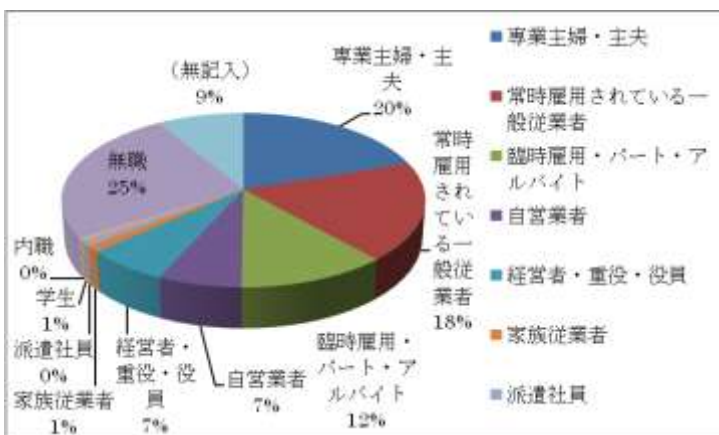
Q 28. あなたの性別をお教えてください。

男女ともほぼ半々である。



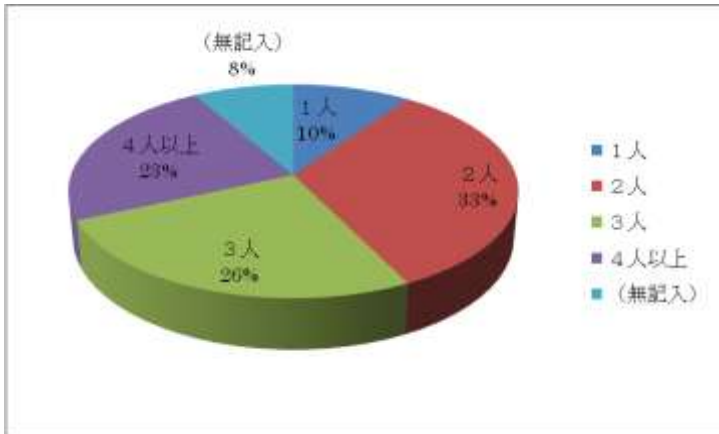
Q 29. あなたの主な職業は次のどれにあたりますか。(一つだけ)

いわゆるサラリーマンが3割弱で、専業主婦・主夫と無職を併せて約45%を占めている。



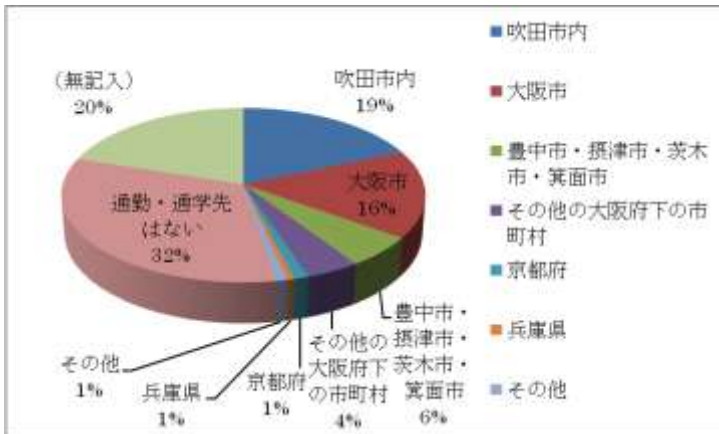
Q 3 0. お宅に同居している人数は、ご自分も含めて何人ですか。

「1人」は約1割であり、殆どが2人以上の世帯である。



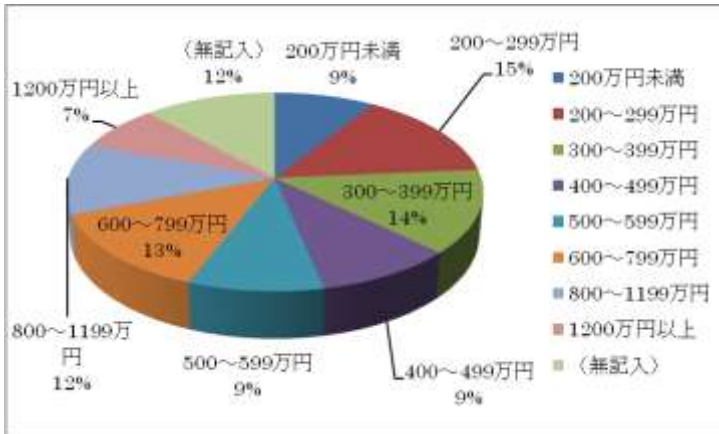
Q 3 1. あなたの主たる通勤・通学地はどちらですか。

「吹田市内」と「大阪市内」がほぼ同率であるが、「ない」と答えた人が3割強と多いのは、Q29で「無職等」が多いのと同様と思われる。



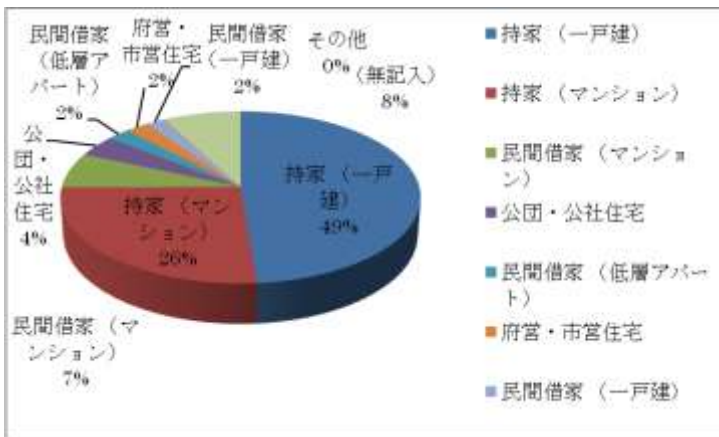
Q 3 2. あなたの世帯の年間収入（ボーナスなどを含めた世帯員全体の年間収入、下宿などで家計支持者と別居している方は、家計支持世帯の年間収入）をお聞かせください。

どの区分もほぼ同じような率を示しているが、400万円以下の人が4割弱を占めているのは、回答者が60歳以上の人が多く、年金収入を主としていることが推測される。



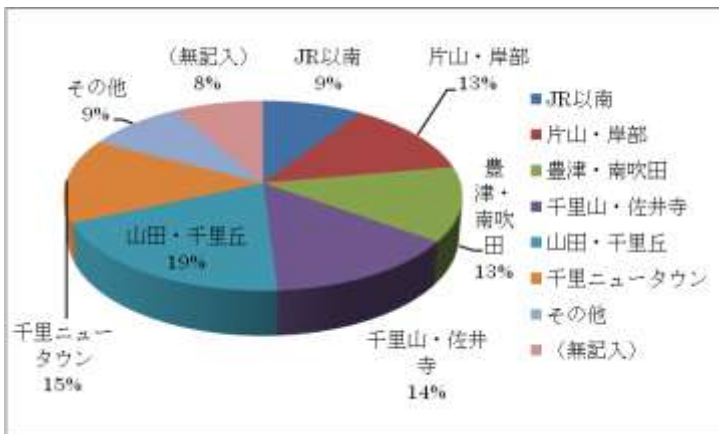
Q 3 3. あなたが今、主として住んでいる住宅の種類は次のどれにあたりますか。

持屋が約 75%と圧倒的に多く、各種借家は低い率になっている。これも回答者が 60 歳以上の人が多いことと関係していると推測される。



Q 3 4. あなたの住んでいる居住ブロックは次のどちらにあたりますか。() 内に町名、丁目を書いて下さい。

このアンケートの対象者抽出の方法を反映して、6つの地域ほぼ同率になっている。



Q 3 5. 最後に、市政や吹田市議会についてご意見やご要望があればお書きください。

全サンプル数 347 件のうち、200 件の人が自由意見に「無記入」である。記入されている中で、「行政・議会の改革」に関する意見が 2 割強と最も多く、この問題に対する市民の関心の高さが伺える。

